

“at-risk MASH”を見抜く！ 新時代の非侵襲診断戦略

かかりつけ医から肝臓専門医まで、だれでも使える NIT 戦略！！

FIB-4 index

ELF スコア

M2BPGi

Elastography
(US/MRI)

CK-18F

対象

一般内科医／かかりつけ医／肝臓専門医／糖尿病・循環器医 ほか

セミナー 1

MASLD・MASH の新概念と "at-risk MASH" の重要性



- NAFLD→MASLD への名称変更と背景
- 全身リスク (CVD・脳卒中) の整理
- 見逃してはいけない患者、が明確に

疾患概念をアップデートしたい先生に

講師 鎌田佳宏先生

大阪大学大学院医学系研究科 先進代謝肝疾患学講座 教授



セミナー 2

FIB-4 index を核とした NIT 実践



- FIB-4 index のリスク層別化
- ELF・M2BPGi・FibroScan 等の役割
- 2ステップ診断アルゴリズム

外来での NIT 使い分けを知りたい先生に

講師 高橋宏和先生

佐賀大学医学部 肝臓・糖尿病・内分泌内科 教授



セミナー 3

CK-18F を用いた "at-risk MASH" スクリーニング



- CK-18F の診断価値
- 活動度スコア・MASH 解消との関連
- 2ステップ戦略で紹介判断

治療効果判定を具体的に知りたい先生に

講師 川中美和先生

岡山大学医歯薬学域 消化器肝臓内科学
(肝腎リハビリテーション連携推進講座) 教授



この動画で得られること

疾患概念の理解

MASLD・MASHと"at-risk MASH"の位置づけを、患者説明にも使えるレベルで整理。全身リスク（心血管疾患、脳卒中）を含めた診療戦略が分かります。

実践的なNIT（非侵襲的検査）戦略

FIB-4 indexを入り口に、ELF・M2BPGi・FibroScan・MREなどを段階的に組み合わせる現実的な診断アルゴリズムを習得。一次医療と専門医療の役割分担が明確になります。

治療・フォローアップの指標

CK-18Fやエラストグラフィを用いた、治療介入後の効果判定と経過観察の考え方を学べます。「フォローアップ継続」か「専門医紹介」かの判断基準が得られます。

こんな場面で役立ちます

かかりつけ医・一般内科医

外来でFIB-4 indexを計算し、誰を追加検査・専門医紹介すべきかの指針に。MASLD患者の見逃しが減らせます。

肝臓専門医

各種NITを組み合わせた精査戦略と、CK-18Fなど新しいバイオマーカーを治療選択・フォローアップに活かします。

糖尿病・循環器チーム

疾患概念とリスクを共有し、施設全体で"at-risk MASH"を見逃さない体制づくりができます。

先生タイプ別 視聴のおすすめ

時間がない先生

高橋先生パート
(FIB-4 index 中心のNIT)

川中先生パート
(CK-18F 活用法)
の順で視聴。

しっかり学びたい先生

鎌田先生（疾患概念）

高橋先生（診断法）

川中先生（治療・フォロー）
で全体を把握。

お問い合わせ

主催・事務局：一般社団法人日本医療戦略研究センター（J-SMARC）
<https://www.j-smarc.org/>

提供



株式会社 特殊免疫研究所

〒112-0004 東京都文京区後楽一丁目1番10号 日本生命水道橋ビル